



岐阜陸上競技協会広報

第12号

2022年4月1日発行

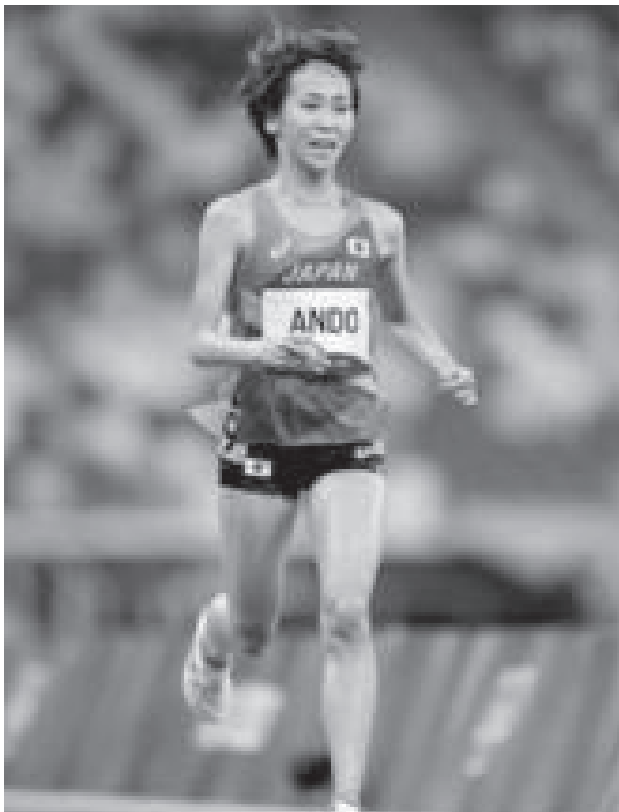
一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所 / 〒502-0851 岐阜市鷺山2562番地28

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp

2020東京オリンピック・パラリンピック開催! 安藤選手・石田選手出場!! 黄倉専務理事が日本陸上競技連盟副会長に選出!



東京オリンピック10000m出場 安藤友香選手
(共同通信社 提供)



東京パラリンピック100m・400m出場 石田駆選手
(岐阜新聞社 提供)

2020東京オリンピック・パラリンピック特集 2頁～8頁

- ① 安藤友香選手(ワコール・東京オリ10000m)
- ② 石田 駆選手(愛知学院大学・東京パラ100m・400m)
- ③ 大会参加役員報告
川瀬・脇田・中畠・馬淵・吉田・山下

日本陸上競技連盟副会長就任報告 黄倉専務理事 9頁

2022年度 岐阜陸上競技協会挨拶 9頁～10頁

- ① 岐阜陸上競技協会 会長
- ② 岐阜陸上競技協会 専務理事

2021年度 岐阜陸上競技協会活動報告 11頁～17頁

- ① 委員会 委員長
- ② 中体連 専門委員長
- ③ 高体連 専門委員長

2021年度 地区陸上競技協会報告 17頁～20頁

TOKYO 2020

2020東京オリンピック・パラリンピック特集

2020東京オリンピックに出場して…

皆さんこんにちは。ワコール女子陸上競技部の安藤友香です。いつも応援していただき有り難うございます。今回の2020東京オリンピック競技大会を迎えるに当たって、本番までの3ヶ月間が1番苦しかったです。5月3日の日本選手権で代表権を獲得してから、約1ヶ月ほど怪我で練習ができず、本格的に練習ができたのは残り1ヶ月という状況でしたので、正直不安がとてもありました。

また、初めてのオリンピックは今まで経験したことのない緊張感やプレッシャー、場の空気感に吞まれてしまい、これがオリンピックなんだと強く実感しました。レースでは、自分の今持っている力を出し切る走りができず、とても悔しい結果となりました。改めて大きい舞台で自分の力を出し切ることの難しさを感じましたが、このような貴重な経験ができたことは、今後の自分の人生の糧になりました。

大会当日だけでなく、大会を迎えるまでの準備期間や、代表権を獲得するまでの取り組み、これまでの一瞬一瞬が成長の



10000m出場 **安藤 友香**
(ワコール女子陸上競技部)

日々で、今の私があります。2020東京オリンピックを通して経験したことを、次はマラソンに活かして、2024年パリオリンピックに向けて頑張りたいと思います。

オリンピックだけではなく、いつも支えてくれる家族やチームスタッフ、関係者の方や関わる全ての人のお陰で、今こうして走ることができることに感謝の気持ちを忘れず、今後も元気に走っていきます! 有り難うございました!



海津市長への大会報告(岐阜新聞社 提供)



女子10000mレース 安藤選手(中央)(共同通信社 提供)



男子400mレースより(岐阜新聞社 提供)

東京パラリンピックに出場して

●大会に向けての準備

5月上旬に代表に内定し、本番まで約3ヶ月半の期間がありました。100mと400mともに決勝の舞台にコンディションを合わせ、スピードの強化、乳酸系の強化等に効率よく日々の計画性を持って活動していました。

本番1ヶ月前となる7月下旬から8月上旬あたりには、オリンピックが開催されており、国内の代表選手が次々にメダルを獲得する瞬間をテレビで見て、非常に刺激を頂いていました。緊張感とともに、1ヶ月後に自分も同じ舞台に立つイメージを持っていました。

●大会出場しての感想

まずは、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した2013年から目標としていた舞台(新国立競技場)で走ることを実現したことに、非常に喜びを感じました。そして、初出場のパラリンピックで、スタート地点に立った瞬間の緊張感は過去1番のように感じました。結果は、100m 5位入賞、400m 予選敗退という



T47 100m・400m出場

石田 駆

(愛知学院大学)



力走する石田選手(岐阜新聞社 提供)

結果になりました。入賞で感じた達成感、予選敗退で感じた挫折感、この2つを実感したことは競技においても、私生活においても非常に貴重な経験となりました。

●今後の抱負

今回の東京大会では、たくさんの経験とともに、課題も見つかった競技会でした。メダルには届きませんでしたが、皆さまのお力があるからこそ5位入賞です。この度はたくさんのご声援本当にありがとうございました。次のパリ大会では今回のリベンジとなるような走りで最高のパフォーマンスを発揮させ、2種目でメダルの獲得を実現させることを目標としています。

また、自身の闘病生活、スポーツを通じて得られた、自身の経験を元に貢献活動にも携わって行きたいと思います。

2020東京オリンピック・パラリンピックに 運営参加して



川瀬 巧 / 東京オリンピック・パラリンピック マーシャル主任

開催の有無や観客の入場など直前まで全貌がはっきりしなかったオリンピック・パラリンピックは無観客での開催となりました。マーシャルという役職の業務上、観客のいない競技会は競技者への対応が中心になり業務内容が焦点化するはずだったが、新型コロナの影響で役員やボランティアの参加が大幅に減ったため運営の手薄な部分を各部署で補ったり、コロナ対応の業務で当初の計画を超えての業務が多くなりました。交代することなく競技時間のほとんどを担当場所に立っていることになりました。午前・夜のセッションともフニッシュエリア・ミックスゾーン入口付近から競技場全体を観察し、競技の進行を確認しながら競技者の動きをコントロールして競

技の遅れが出ないようにするなどテレビカメラの陰でかなり気を使う場面が多くありました。

多くの国々の代表が競い合い、世界記録が多数生まれた競技会を生で体験できたことは感謝すべきことであり、これを今後に生かしたいと思います。



脇田 篤実 / 東京オリンピック・パラリンピックトラック総務員・監察員

今回両大会に参加して改めて、どんな規模の大会であっても「確認・報告の素早さ」が重要なポイントとなるのが改めてわかりました。結果を出さない限り競技は終了とはならない。こんなことは当たり前のことだが、「オリンピック・パラリンピック」だから、より確かな情報を伝えようとするあまり、確認に時間がかかったことが多くありました。そんな中でも、つたない英単語と身振り手振りでの報告を続けていたら、審判長から毎日競技終了時には「good job」「see you tomorrow」と言ってもらえたことはうれしく思いました。

やはり大きくて特殊な大会だったなあとと思います。参加している競技者は、自身の生活や国を背負って参加しているなど感じました。国内大会なら何ら問題にならないことが、抗議や上訴につながる事案が多くありました。このことから改めて競技を正確に見ていくことの大切さを感じることができました。

最後に無観客の大会であったのがやはり残念でした。歓声の中での競技会であったのなら、もっと盛り上がっただろうと思います。競技者のパフォーマンスも上がり、記録ももっと上がっていただろうと思うと残念でした。

英語力の乏しさで苦しかったこともありましたが、オリンピック・パラリンピックで貴重な経験をすることができてうれしく思います。ありがとうございました。



中 舘 菊 太 郎 / 東京オリンピック・パラリンピック 投擲光波計測

初めて経験するVDM(ビデオ計測)

私が担当した部署は「投擲」です。科学計測を主に行いました。通常のEDM(光波計測)が大半でしたが、オリンピックの砲丸投げ決勝(のみ)では、初めて経験するVDM(ビデオ計測)を行いました。これは、ビデオ撮影した映像から、投擲物の軌道を割出し、距離を計測するものです。審判員が落下地点に入る必要がなく、フィールドがクリアになるのがメリットのようです。また何よりトップアスリートの力強い姿とその競技を間近で見ることができ、大きな感動を得ることができました。

タータンをスパイクのピンで切り裂きスリップ

男子のやり投げで、世界ランキング1位のドイツの選手が、ベスト8に残れませんでした。どうしたのかなと思ったら、タータン(新国立はイタリアのモンド社製)の助走路に20cmほどの切り裂かれた跡がありました。おそらく、助走をして投げる際に左足を踏み出した時、タータンの地面をスパイクのピンで切り裂いたことでスリップしてしまって上手くいかなかったのです。国内でそんな事例を見たことがありません。パワーが違うなど驚きました。

このような、世界中が注目するビッグイベントに審判員として参加させていただき、貴重な経験をさせていただいたとともに、全国から集まった審判員と、仲間としての繋がりが持つことができました。このような機会をいただきました岐阜陸上競技協会、関係者の皆様はこの場をお借りしお礼申し上げます。



光波計測機による測定



馬淵 昭宏 / 東京オリンピック 競技者係

この度、NTO(国内技術委員)として2020東京オリンピックの競技運営に参加させていただきました。競技者系の業務自体は県内で実施する全国規模の大会と変わりはありませんが、First Call及びFinal Callの2段階の手順を踏む必要があること、分刻みの招集スケジュールがWA(世界陸上競技連盟)から指示されていること、日本語が通じないこと、などの課題がありました。自分も含めて全国から集まった審判員は、普段とは勝手の違う場所での運営に四苦八苦で、初日は大混乱でしたが、次第に要領を得ることもでき、落ち着いて業務を進めることができ、全日程を終えることができました。

岐阜で開催されました第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会や2019ジャパンパラ陸上競技大会は事前研修を兼ねたものですが、競技者系の面々は岐阜陸協の招集所の運営を絶賛しており、岐阜での経験が今大会にも非常に効果的であったと思います。

国内では決して開催が喜ばれる状況ではない中、岐阜陸上競技協会からの推薦をいただき、貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。



吉田 徹 / 東京パラリンピック 投擲競技審判員

コロナ禍の開催になった今大会では感染症対策が厳重に行われた大会となり、無観客の寂しさを感じましたが、パラアスリートが自身の障がい乗り越え、限界に挑戦する姿は、見る者の胸を熱くするものでした。

私はNTO(国内技術員)として投擲の審判業務を行った。投てき競技は試技の時間が長く、1つのセッションが3時間を超えるものばかりでしたが、選手が全力を発揮できるようにするため、主任の指示のもと、審判員が連携して運営にあたりました。特に車いすの選手が競技をするときには、多くに時間を要するため、時間の短縮を求められました。投てき台への乗り移りから投

擲物の手渡し、記録の測定までを迅速に行い、選手のパフォーマンスを最大限に発揮できるように努めました。

今大会での経験や得た知識は、岐阜のパラアスリートが成長できるように還元し、より良い大会運営や選手のパフォーマンスを最大限に発揮する審判業務に活かしていきたいと思います。



サブグラウンドにて石田選手と



山下 和行 / 東京パラリンピック 競技者係 副主任

※ロンドン大会に続き2大会参加

競技者係の活動

招集所では、アイマスク、アイパッチ、テザー、義手・義足、競技用車いす、投てき台など、パラ陸上独自のチェックがある。それに加え、数十種類に及ぶリクエストフォーム(書式はもちろんすべて英語)の受付など、普段の競技会では経験しないようなことが多くあります。また、日本と海外でのルールの解釈の違いも体験した。その都度、招集所に配属されたITO(国際技術員)にも確認をしながら、どう進めていくか決め、それを日本のNTO(国内技術員)に共有するといったことが多くありました。ルールブックを読むだけではわからないルールがあります。できた背景なども交えたやり取りは大変勉強になりました。ITOもフレンドリーな方ばかりでコミュニケーションもスムーズに行えました。

副主任として

同じチームのNTOはもちろんのこと、他チームのNTOの働きやすい環境を整えることに注力しました。事前の準備から携わったが組織が大き過ぎることなどから思うような準備ができませんでした。また、パラリンピックのみの参加だったため、現地に行ってからオリンピックでできた流れをパラリンピック仕様に再調整することも多く、大変苦労しました。最後は笑顔で終わることができてほっとしました。

道案内

招集所での活動で一番多かった業務は、実は道案内だった気がします。海外の方たちから道を聞かれ、それに片言の英語で応えます。最初の頃は、動線やADの規制レベルがわからずに案内するのに苦労しました。国際大会とはいえ、英語で話せる方ばかりではない。中には母国語以外はわからないという方も少なからずいて、ジェスチャーで案内することもありました。そんなやり取りができるのも国際大会のひとつの醍醐味かもしれません。道案内のお礼をいただくこともあり、ピンバッジ交換などの交流も楽しめました。

岐阜市で事前合宿を行ったカナダチームには自分が岐阜から来ていることを伝えると「岐阜市は良かった。良いところだ。」と、皆さんが口を揃えて言ってくれました。

また、他の国の方で一度丁寧に対応すると何でも聞いてくる方もいて、Hi, brother!と毎日、声をかけてくれました。帰る日もわざわざ挨拶に来てくれて、嬉しく思いました。自国に帰っても良い思い出となってもらえたらいいなと思いました。失礼ながら全く知らない名前の国もあったが、お国柄など関係なく、純粹に一人の人間同士で関わった気がします。それは本当に良い経験だと思います。





東京オリンピック審判員 馬淵(前右)・中崙(前左)・脇田(後右)・川瀬(後左)



東京パラリンピック審判員 写真右より川瀬・山下・吉田・中崙・脇田

黄倉専務 日本陸連副会長就任報告

「日本陸連副会長就任にあたり」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 専務理事 黄倉 寿雄

2019年～2020年の2年間東海陸協の代表理事として日本陸連の理事会に参加させていただきおおよその様子は理解しているとはいえ、まさか副会長の任に自分が就くということは夢にも思わぬことでした。驚きと戸惑いを隠せぬ自分でしたが尾藤会長をはじめ岐阜陸協、東海陸協の皆様方から励ましの言葉をいただき冷静さと前進する勇気を取り戻すことができました。ありがとうございました。

就任の翌週、大阪の日本選手権が初仕事でしたが、日本陸連のスタッフ、各地域陸協代表理事の皆様にご温かく迎えていただきました。70歳を前にあらためて陸上競技仲間のありがたさを痛感した次第です。

副会長就任以来、日本陸連主催大会や事業に出席する機会が増え、他府県の陸協役員の方々からお話を聞かせていただくことが多くなりました。岐阜陸協のイメージは、2018年第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会(国際大会)を開催した地方陸協として、また、日本陸連、実業団、学連、障がい者協会など様々な種別の大会開催経験を持つ陸協として高い評価をしていただくことが多く、これも、岐阜陸協の皆様の日頃の努力が認められての結果であると大変うれしく思います。第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会

では「2020東京オリンピック」を前に国際大会の審判研修を兼ね日本陸連、NPOの皆さんが全国から集まられたことも大きく影響していると思いますが、この度の私の副会長就任も、このような岐阜陸協の皆様の活躍が大きく後押しをしてくれているのだと思います。責任重大ですが、副会長の任に就いても地方陸協の意見や現状を中央に伝えることが私の最大の任務であると考えています。同時に「2020東京オリンピック」を終え、日本陸上界益々の隆盛を図るために日本陸連が進める新しい施策の普及に貢献できるように努力していきたいと考えています。今後とも、岐阜陸協の皆様のご協力をお願いいたします。



2022年度 岐阜陸上競技協会 挨拶



「ご挨拶」

平素より、本協会の活動に、ご支援とご協力をいただき心よりお礼を申し上げます。

2021年、延期されていた2020東京オリンピック、パラリンピックが開催されました。無観客ではありましたが世界のトップアスリートの競技する姿は日本のみならず世界の人々に勇気と感動を与えてくれました。岐阜県出身の選手(オリンピック女子10000m安藤友香選手、パラリンピック100m、5位入賞の石田駆選手)の雄姿に手に汗握る思いで応援モニターやTV画面を通して声援を送られたファンの方々も多くお見えになったと思います。また、オリンピック女子1500mで日本人初入賞を果たされた田中希実選手(2018アジアジュニア)、パラリンピックT64男子走幅跳金メダリスト、ドイツのマルクス・レーム選手(2019ジャパンパラ)、いずれも岐阜の長良川競技場でその卓越した競技力をもって私たちを魅了した選手の活躍にも感動された方も多いのではないかと思います。

2020東京オリンピック、パラリンピックでは、実に様々な種目を観戦する機会に恵まれました。障がい者の方々も競技も多く観戦することができました。

一般財団法人岐阜陸上競技協会 会長 尾藤 義昭

そこには、世界のトップレベルに挑む選手たちに一人一人のドラマがありました。そして、そのドラマは選手を支える多くの人たちの夢や希望が詰まっていた。競技スポーツが多く感動を私たちに与えてくれる理由がそこにあると思います。過去に例を見ない、世界がコロナ禍にある中で開催された2020東京オリンピック、パラリンピック。選手たちが私たちに与えてくれた感動とともに「夢をあきらめない」「希望を忘れない」を再認識させてくれた歴史的な大会になったのではないかと思います。この意義を大切にしながら、岐阜の陸上競技界が発展することを期待します。視点を変えて、2020東京オリンピック、パラリンピック競技運営に日本を代表する競技役員として参加された本協会員の姿もTV中継の会間に気づかれた方も多いかと思います。約一か月にわたり両大会成功のために尽力された労に「ご苦勞様でした」と感謝をこめてねぎらいの言葉を送りたいと思います。

2022年も本協会は、4月の高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン、9月の全日本実業団対抗陸上競技選手権大会の運営協力を筆頭に東海学連、東海高体連、東海中体連の主要大会に運営協力いたします。コロナ感染防止活動に油断できませんが安全な大会運営に協会員の皆様のご協力をお願いいたします。



「2022年度に向けて ～10年目の節目～」

2021年度1年延期されていた2020東京オリンピック、パラリンピックが開催されました。開催延期、無観客、通称バブル体制といわれるコロナ感染防止対策の中での開催

でした。日本勢の活躍に注目が集まる中で、岐阜県出身の選手として、オリンピックに安藤友香選手(女子10000m22位)、パラリンピックに石田駆選手(T47 100m5位入賞)が会場活躍をしてくれました。また、長良川競技場で最終調整合宿をしたカナダチームの アンドレ・ドグラス選手200m金メダリストらの活躍も素晴らしく印象に残りました。一年延期されたにも関わらず世界のトップアスリートの競演は迫力十分であり、そして、美しくもありました。その姿を目に焼き付けた岐阜のジュニアアスリートたちのなかから将来オリンピック、パラリンピックで活躍する選手

一般財団法人岐阜陸上競技協会 専務理事 黄倉 寿雄

が誕生することを期待したいと思います。オリンピックには間に合いませんでしたが、岐阜県出身選手の活躍で特筆すべきことがもう一つありました。日大大垣高出身の河村一輝選手(トエネック)が6月の日本選手権で1500m優勝、7月のホクレンディスタンスチャレンジで1500m日本新記録達成の快挙を成し遂げました。日本陸上の中距離界を今後ますます面白くする活躍に期待したいと思います。

さて、2021シーズンも昨年引き続きコロナ禍での大会開催が続きました。その中で、隣県の三重国体に代表されるように第5波の襲来で大会開催中止を余儀なくされた期間や大会がありました。県陸上界としては大会開催率が約83%でしたが大会参加者数は年度計画の約95%を達成しました。このことは、2020年度の経験から感染対策としての対応を適切に行いながら、一方で選手たちの競技会への情熱を消さないよう

に、大会期日の変更、エントリー種目の工夫をしながら、県陸協、地域陸協、中・高体連関係者が代替競技会開催に努力した成果と思いき感謝申し上げます。同時に、コロナ禍にあっても目標に向かい不断の鍛錬を重ね競技に取り組まれた選手、監督の皆さんの姿にも敬意を表する思いです。

2021年度は高校生アスリートの活躍が目立ちました。2021インターハイ男子200m2位 矢島亮選手 (市岐阜商)、女子400m3位 森樺音選手 (済美)、4×400mR 5位 (済美)、第15回U18陸上競技大会女子やり投1位 櫻井希美選手 (済美)、男子やり投3位 山田航大選手 (市岐阜商)、男子砲丸投7位 阪本健斗選手 (中津川工)、U16円盤投げ1位 松田流輝選手 (市岐阜商)。そして、全国女子高校駅伝1区9位 瀬木彩花選手 (美濃加茂)、U20選抜女子競歩5000m 4位 中野彩月 (益田清風)といずれも素晴らしい活躍でした。コロナ禍にあってもジュニア選手の強化が遅れがちなかでのこの活躍は選手、指導者が目標を高くもって日々のトレーニングに集中した成果だと思えます。この成果をさらに継続するために、強化及び普及委員会を中心に指導者の技能向上を目的とした練習会、研修会の開催を積極的に展開し選手の育成に関する様々な情報交換・共有を行う場を設けることが重要であると思えます。

さて事業的には、清流ハーフマラソン、郡市対抗清流駅伝がコロナ禍により2年連続で実レースができませんでした。ロードレースは、開催規模が大きく陸上競技以外の関連団体の協力を得なければ運営が難しい一面も持っています。2022年度には新県庁舎も完成します。従来のコース(県庁一羽島間)の開催も可能になります。ロードレースファン、駅伝ファンのためにも感染予防対策を取りながら再開にこぎつきたいと考えています。

2022年度早々、新型コロナウイルス・オミクロン株の猛威に「天皇杯男子都道府県対抗駅伝」が中止になるなど波乱の年明けとなりました。2022年度は、本県では、4月に第11回ぎふ清流ハーフマラソン、9月に全日本実業団対抗陸上選手権大会が長良川競技場で開催されます。また東海学生、東海高校総体 東海中学陸上などの大会も開催されます。例年がない、中・高生から一般・大学生までの幅広い年齢層の大会運営をしなければなりません。ルールの変更点などをよく理解したうえで信頼を得る審判と円滑な運営に岐阜陸協総力を挙げて取り組みたいと考えています。準備はもう始まっています。協会員の皆様のご協力をお願いいたします。

「光陰矢の如し」2022年度で法人化10年目を迎えます。近年は法人団体として社会的役割と活動の目的を達成するための組織運営(ガバナンスコード)、組織活動に必要な規範(コンプライアンス)について公表を求められる時代になってきました。その節目ともいえる年度を迎えるにあたり、昨年からの継続課題である外部理事25%、女性理事40%達成(スポーツ庁指針)に向けての組織づくりを推進しなければなりません。地域スポーツ団体として大変難しい数字ではありますがスポーツ庁の指針に近づけるよう協会員の皆様のご理解とご協力に期

待したいと思えます。

学校の職員の働き方改革に伴い学校部活動が地域活動型へ移行する方針が国及び県から出されたことからクラブチームの登録が増加傾向にあります。クラブチームの活動形態も様々で工夫されていますが、岐阜県の陸上競技普及育成という観点で、岐阜陸協と岐阜陸協登録クラブチームとの協力体制作り(コンプライアンスを含む)が必要と考えています。小・中・高と成長に合わせた指導を大切にされた体制作りを進めていきたいと思えます。併せて、ジュニア競技力の向上と指導者の育成は本県の優先課題です。その点においても協力体制作りは重要です。指導者の協力、結束をお願いいたします。

長良川競技場の公認延長のための改修工事が進んでいます。岐阜県の理解を得てメイン走路に逆走路を新設することができました。100m 100mH 110mH の逆走が可能になります。風向の状況にスムーズに対応する運営技術の習得に努めながら、選手の記録向上に有効活用したいと考えています。長良川競技場で100m9秒台の走りがみられる日も近いかもしれません。そのような夢を持ちながらあたらしい競技会の検討を進めていきたいと思えます。

2022年度も取り組む課題はたくさんあります。これらの課題を進めるにあたり、例年にも増して協会員の皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの感染予防対策は、個人レベルでは誰もが確実に身につけ実行できるようになってきました。第3回目のワクチン接種、児童用のワクチン接種も始まりました。治療薬も近々実用化される見通しなど医療的にも進んできましたが、まだまだ油断はできません。2022年度も参加者全員に、マスクの着用、手指の消毒 ソーシャルディスタンスなど感染予防対策への取り組みをお願いします。できうる限り無観客競技会は避けたいのですがやむを得ない場合もあります。次の競技会開催につなげるための対策です。ご理解とご協力をお願いいたします。

一日も早い新型コロナウイルスの終息を願うとともに、世界の平和が安定することを祈ります。



専門委員会報告

総務委員会

2021年度も新型コロナウイルスの影響が懸念される中でのスタートとなりましたが、感染対策を徹底した上で今年度は第1回から4回の理事会、定例評議員会、栄章審査会、2回の競技会要覧会議を全て対面で開催することができました。本年度は、役員改選に伴い、2名の顧問・参与、7名の理事・監事の選出を行い、評議委員会で承認されました。また、3月5日(土)には昨年度の秩父宮章並びに優秀指導者章と合わせて2021年度栄章表彰式を岐阜メモリアルセンターにて開催することができました。

2022年度も新型コロナと共存しながらの競技会運営になると予想されます。安心・安全な大会運営を行うためにも岐阜陸上競技協会会員の皆様、各大会への参加者の方には、これまでと同様の感染対策の徹底をお願い致します。

【2022年度 総務委員会 事業計画】

1 理事会・評議員会

月日	曜日	会議	時間	場所
5月15日	日	第1回理事会	15:00~17:00	長良川競技場 会議室
6月25日	土	定例評議員会	15:00~17:00	長良川競技場 会議室
8月13日	土	第2回理事会	15:00~17:00	長良川競技場 会議室
12月4日	日	第3回理事会	15:00~17:00	長良川競技場 会議室
3月4日	土	第4回理事会	13:00~15:00	長良川競技場 会議室

2 委員長会議(必要に応じて開く)

3 栄章関係

月日	曜日	会議	時間	場所
11月初旬		栄章候補提出依頼		
12月4日	日	栄章審査会	13:00~15:00	長良川競技場 会議室
2月中旬	日	受章者案内発送		
3月4日	土	栄章表彰	審判講習会の前	長良川競技場 会議室

栄章受章者集合写真撮影…業者に依頼

4 競技会要覧関係

月日	曜日	会議	時間	場所
11月27日	日	第1回競技会要覧会議	14:00~16:00	長良川競技場 会議室
1月21日	土	第2回競技会要覧会議	14:00~16:00	長良川競技場 会議室
		2回から3回校正		
3月初旬	土	配布・販売開始		

5 その他の主な会議

月日	曜日	会議	時間	場所
4月16日	土	第1回高橋尚子杯びん清流ハーフマラソン 第2回主任者会議	15:00~16:00	長良川競技場 会議室
10月15日	土	清流都市対抗駅伝主任者会議	午前	岐阜都ホテル
		監督会議・開会式	午後	岐阜都ホテル

6 その他 業務

- ・2022年度日本陸連地域活性化助成金使用方法決定と申請・報告

- ・地区陸協との連携
- ・各大会審判業務反省要望のとりまとめ
- ・日本陸連、県、県教育委員会、メモリアルセンター、県体協、等 連携
- ・補助金申請、報告、会場使用申請、その他
- ・各種会議の招集

【2021年度 受章者 一覧】

●公益財団法人日本陸連表彰

章	氏名	所属
高校優秀指導者章	勝川 誠	中津川工業高校教諭
中学優秀指導者章	吉田 靖	関市立旭ヶ丘中学校教諭
高校優秀選手章	矢島 諒	市立岐阜商業高校
中学優秀選手章	宇納 杏莉	大垣市立西部中学校

●少年少女陸上競技指導者表彰(安藤スポーツ・食文化振興財団)

章	氏名	所属
安藤百福章	柴田 法昭	美濃加茂ジュニア陸上クラブ

●一般財団法人岐阜陸上協会表彰

章	氏名	所属
功 勞 章	馬場 信孝	岐阜教員クラブ岐阜
	松田 哲明	関体協
	木村 正行	養老町陸上競技協会
	安藤 和昭	東濃地区陸上競技会
	谷藤 寛三	高山陸上競技協会

章	選手名	所属	大会名	種目	記録
田 口 章	菱田隆貴(3)	海津日新中	全国中学生陸上競技大会2021	4x100mR	予 44.56
	水谷岳夢(3)				
	水谷蓮心(3)				
	佐々木琉羽(3)	大垣西部中	全国中学生陸上競技大会2021	4x100mR	予 51.01
	水谷優希(3)				
	藤井菜緒(3)				
細井咲希(3)					
大橋歩佳(3)					

章	選手名	所属	大会名	種目記録	日付
新 記 録 章	井戸アビゲイル風果	甲南大	東海選手権	女子200m 23.73(+1.3)	8月21日
	長見京華(3)	中京学院大	東海学生 秋季長距離	女子3000mSC 10.57.26	11月20日
	小林 聖(4)	岐阜協立大	GKU 競技会	女子走幅跳 6m16(+1.9)	5月29日
	松本七海(2)	中京学院大	日本学生 ハーフ	女子ハーフマラソン 1.12.16	3月14日
	済美高	全国 高校総体	女子4x400mR 3.45.93	8月1日	前出心美(2)→渡邊葉月(3)→岡田麻鈴(2)→森樽前(3)

●2021年度岐阜県優秀選手章

章	選手名	所属	大会名	種目	記録
澤 田 章 <small>棒高跳優勝者</small>	濱野 雄平	大垣西部中	県中学総体	棒高跳	3m80
	白木 晴也	県岐阜卓尚	県高校総体	棒高跳	4m20
	築地 涼平	K Y B	岐阜県選手権	棒高跳	4m60
土 屋 章 <small>最優秀選手</small>	武藤 魁里	相生陸上	小学生陸上 競技交流会	コンバインドB	2120(NR) 走幅跳4m40 ジャベック51m83
	伊藤 希実	精華SC	岐阜県選手権	コンバインドB	1807(NR) 走幅跳4m05 ジャベック40m82
	佐々木 琉羽	日新中	県中学総体	200m	22.60(-3.3)
	中山 鈴菜	恵那東中		走高跳	1m60
	栗本 遥生	斐太高	県高校総体	走幅跳 110mH	7m35(-0.6) 14.45(+0.2)
	森 樺音	済美高		200m 400m	24.39(+1.2) 55.60
	佐々木 秀斗	岐阜協立大	岐阜県	ハンマー投	62m88
	井戸アビゲイル風果	甲南大	選手権大会	200m	23.91(-0.0)



栄章受章者集合写真／長良川球場
(委員長 吉田 靖)

審判委員会

【2021年の振り返りと2022年に向けて】

1 2021年は…

2021年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。しかし、新型コロナウイルスにより、オリンピック・パラリンピックは無観客の大会となりやや残念な思いをすることになりました。そんな中、石田選手をはじめ岐阜県ゆかりの選手が活躍してくれたことはうれしく思います。

2021年の競技会は、制限付きではあったものの春から開催することができました。審判委員会としては、今年度でもできる限り密にならないように、競技役員の数少く化を図ったり、受付場所や審判待機場所を広くすることや検温や消毒の徹底を行ったりしました。皆さんには、多くの迷惑や不便をかけたことを申し訳なく思っています。皆さんのご協力により岐阜陸協関係競技会から新型コロナウイルスの発症を防ぐことができました。また、2021年度も朝早くから多くの競技役員や学校関係者のみなさん、補助員のみなさんに助けていただいて、すべての競技会が大きなトラブルもなく無事開催することができました。ありがとうございます。2022年度よろしくお願ひいたします。

今年度S級に昇格された方は、江崎尚さん、杉浦和男さん、西垣幸司さん、高井繁喜さんの4名です。おめでとうございませう。これからもよろしくお願ひします。

2 東海学生、東海高校、東海中学、全日本実業団開催!

2022年度は、各世代の東海大会を主催します。東海学生を5月27日(金)～29日(日)、東海高校を6月17日(金)～19日(日)、東海中学を8月8日(月)、東海高校新人を9月17日(土)～18日(日)、そして全日本実業団対抗選手権を9月23日(金)～25日(日)、に岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催します。例年になく東海大会が続きますが、世代を代表する選手が岐阜で素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれます。特に全日本実業団対抗選手権では、100mを9秒台で走ることも期待されます。パフォーマンスを十分発揮してもらえるような競技運営をしなければなりません。ルール通りに進行することはもちろん、招集から選手紹介、レース、結果発表までの流れ、また、この一連を伝えるアナウンスなど全審判員の連携が大切です。

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を取りながらの競技運営になります。コロナ禍でも安全に公平に競技会運営を頑張っていきたいと思います。

3 2022年度に向けての主なルール改正(明確化)

①曲走路を使用する競技において内側ライン・縁石の踏み込み、踏み越しの扱い

A:レーンを使用する競技

曲走路で内側のラインを1回(1歩)だけ踏んだ場合は失格としない。

B:レーンを使用しない競技

縁石(ライン)を1回(1歩)だけ踏んだ(越えた)場合は、失格としない。

- 2回(2歩)以上踏んだ場合は失格とする。

- 同じ競技の場合は次のラウンドに持ち越す。

違う競技の場合には持ち越さない。

※リザルト、スタートリストに「L」(レーン侵害)を表示する。

②走幅跳、三段跳での踏切の判定

- ・走幅跳、三段跳でのビデオカメラ等による踏切の判定を可とする。

- ・踏切板(粘土板)の粘土の角度の変更(45度→90度)基本的には、粘土板を使って判定をし、粘土板に痕跡が残っていれば、無効試技とする。

③フィールド競技における連続試技の扱いの変更

走高跳・棒高跳において、高さが変わった場合も連続試技の時間を適用する。

④C級審判員制度の導入

講習会日程は、高体連と相談しながら早期に導入する予定。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

本年度も昨年同様、コロナ禍での大会運営となりました。岐阜陸協としては、本協会の運営する競技会では、一人のコロナウイルスへの感染者を出さないことを最大の目標としたため、無観客での大会運営となりました。また、関係者の応援も隣の人との間隔をあけ、大きな声を出さないようにしてもらいました。

その結果本年度も本協会主催の競技会では、一人のコロナウイルスへの感染者を出すことなく終えることができました。

最近ではコロナウイルスへの感染も、少しずつ収まりを見せ始めています。ですから、来年度こそは競技会では競技場に選手と関係スタッフだけではなく、多くの方々に入ってきて、活気にあふれる大会にしていけたらと思っています。

2021年度 競技会参加数

日付	大会名	計
4月10日	春季記録会(岐阜)	1029
4月11日	春季記録会(多治見)	761
4月17日	澤田記念春季陸上	2043
4月29日	ぎふスポーツカーニバル	1390
5月7日 5月10日	東海学生	863
5月15日 5月16日	中部実業団対抗陸上	550
6月27日 7月4日	県選手権	1308
7月10日 7月11日	中学通信	1829
7月18日	小学生交流	417
7月18日	小学生交歓	512
8月8日	強化普及記録会	700
8月29日	県ジュニア	814
10月10日	都道府県駅伝プロジェクト記録会	70
10月8日 10月9日	中部実業団選手権 多治見フェスティバル	484
10月30日	中学新人	1009
11月6日	秋季記録会	2307
11月27日	長距離・強化記録会・都道府県駅伝選考会	318

(委員長 河野 康彦)

強化委員会

2021年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中でのシーズンとなりました。しかし、そんな中でも岐阜県にかかわる選手たちは素晴らしい結果を残してくれました。スポーツ最大の祭典であるオリンピックが1年越しではありますが東京で開催され、岐阜県出身の選手としてはワコール所属の安藤友香選手が女子10000mに出場し多くの国民の声援を背に戦ってくれました。また、トエネック所属の河村一輝選手が男子1500mにおいて日本記録を更新する活躍をし、日本選手権では見事優勝を果たしました。アワーズ所属の赤松諒一選手は男子走高跳において7位入賞でした。U20日本選手権では創価大学の山下唯心選手が3000mSCで7位入賞しました。さらに高校生も大いに活躍してくれ、インターハイで男子は市岐阜商高の矢島諒選手が200m2位、井上源祿選手が円盤投4位、斐太高の栗本遥生選手が走幅跳4位、美濃加茂高の後藤誉選手が5000mW8位、女子は済美高の森樺音選手が400m3位、4×400mRが県高校新記録で5位でした。そして、U18陸上競技選手権大会では済美高の櫻井希美選手が女子やり投の県高校新記録での優勝を筆頭に女子は美濃加茂高の瀬木彩花選手が1500m4位、男子は市岐阜商高の山田航大選手がやり投3位、中津川工高の阪本健斗選手が砲丸投7位でした。U16陸上競技選手権大会では市岐阜商高の松田流輝選手が円盤投において優勝という成績を収めてくれました。記録としては東海選手権において済美高の4×100mRも県高校新記録を樹立しました。コロナ禍で思うようなトレーニングができなかった状況ではありますが、選手・指導者が今できることを本気で取り組んだ結果だと思います。中学生に関しては各学校で練習のできない環境により顕著に表れ全国大会での入賞がない年となってしまいました。今後、この悔しさをバネにより一層中学強化にもさらに力を入れ、少年種別で活気溢れる選手育成をしていきたいと考えます。都道府県駅伝については女子のみの開催となりまし

たが、ここでも新型コロナウイルス感染症の影響によりメンバー変更を余儀なくされる状況となりました。国体については今年度も中止となってしまいましたが、代替試合の東海フレンドシップゲームに岐阜県選手団で挑むことができました。すこしずつではありますが、着実にチーム岐阜として戦う準備はできていると感じます。

2022年度に向けては各種別での全国優勝や入賞できる選手をより多く輩出できるよう各種別での強化に取り組むと共に、種別種目を超えたチーム岐阜としての強化を進めていく必要があると思います。選手や指導者との連携を密に行いながら岐阜県として陸上競技に対するモチベーションを高めていきたいと考えます。そのために強化委員会としては強化練習会や合宿の回数を増やし連携を取っていくこと、一貫したトレーニング内容を定着させること、質の高い指導のために学び続けることを大切にしていき、国体でのV字回復や都道府県駅伝の8位入賞を果たしたいと思えます。

今後ともご指導ご声援のほどよろしくお願いたします。

(委員長 太田 和憲)

普及委員会

昨年度、東京オリンピックが開催されました。新型コロナウイルス感染拡大に負け、盛り上がり欠けたような気がしますが超一流選手の素晴らしい活躍に興奮いたしました。実際に競技を観戦できなかつたことがちょっと残念でした。

小中学生の競技会も、8月の全国大会に向けた取り組みを行っているさなか競技会の中止があり、選手や指導者に不安がよぎりました。

しかし、大会関係者による運営側の感染対策、選手、保護者、指導者等参加する側の感染対策等々、運営側・参加者側が一体となって大会開催に取り組むことができ、感染者を出さず大会が開催されたことに深く感謝しています。

ただ、例年各地区で開催していた陸上競技練習会・教室が思うように開催できずとても残念に思っています。

小学生の登録制度は平成28年度から取り組み、28年度4年生以上でしたが987人、29年度以降は全学年を対象として1700人以上の登録がありましたが、ここ2年は新型コロナウイルスの影響か平均1550人の登録となっています。

また、中学校の部活動への取り組みも議論が行われておりこの対策も協議していかなければならないと考えています。

2022年度活動計画

- ・各地区での陸上競技教室・練習会の開催
- ・ジュニア指導者研修会の開催(スタートコーチ、ジュニアコーチ)
- ・小学生団体の組織化についての検討
- ・県小学生駅伝大会の開催
- ・小学生の全国・東海地区大会に向けた練習会の開催
- *小学生の登録を初めて6年。昨年度登録者数は、1571人。登録団体数は、少年団体・クラブ等43、小学校名12の55団体でした。

子どもたちのスポーツに取り巻く社会的環境が大きく変化してきている現在、指導者や保護者とともに考えていかなければなりません。

指導者研修会、小学生団体の組織化についての検討を行っています。

***小学生の駅伝大会ができないものかと以前から考えてきました。**

新型コロナウイルス感染拡大により、地域の協力により行われていた小学生駅伝が中止になり、小学生の長距離の普及活動としてできないものか検討してきました。

今年度は、岐阜陸上競技協会の競技大会として位置づけ大会を開催いたします。皆様のご声援をお願いします。



(委員長 星野 廣典)

記録・情報処理委員会

昨年度は日本陸連への公認記録申請で電子申請100%を達成しました。各地区で今までは手書きで行っていた競技会も記録・情報処理員の育成やコンピューターの導入などを推進していただき、実現することができました。記録・情報処理委員会としても、コロナ禍で陸上競技に関わる機会が減ってしまったり、突然の人員不足によって競技会運営にも不安があったりする中でも、他地区からの審判員派遣や、県陸協所有機材の無償貸し出しなどのサポートをさせていただきました。

来年度は、競技会終了後、1週間以内に日本陸連への公認記録申請を目指しています。今年度よりも早く正確に競技会中の記録チェックが重要になってきます。また、各地区から届いたりザルトは記録・情報処理委員会でも必ずチェックをしています。差し戻すことの無いようにどんなポイントに注意してリザルトを作成したら良いか、もう1度、大会前に確認をお願いします。間違いやすいポイントなどは先日の理事会で各地区

の理事長へ配布しています。記録担当の方は必ず確認をお願いします。

また、来年度は非常に大会の数が多くなっています。同日に開催される大会の数が多い日も見受けられますので、審判員や機材の割り振りについても事前に相談して、競技会運営に支障が出ないように助け合っていきましょう。

来年度も引き続きよろしくをお願いします。

(委員長 山下 和行)

女性委員会

【2021年度 女性委員会総括】

女性委員会は女性が積極的に競技会審判員として参加して頂くため、皆様のご意見を広く伺い、改善を進めて参りました。

主な活動として、2012年度から10年続けて開設している託児所があります。子育てに追われるお母さまのみならず、休日に子育てをするお父さま方も安心して審判員をして頂けるよう、関係各位のご協力を頂き託児所を開設、運営させて頂いてきました。お陰さまで年々ご利用のご依頼が増えており、円滑な競技会運営の一助となっていることを励みに感じております。

開設当初にご利用頂いたよちよち歩きのお子様も、今は小学生の選手となって競技場を駆け回っていたりと、うれしい成長を目にすることもできました。保護者の方も審判業務の空き時間に気軽に様子を見に寄って頂ける雰囲気これから維持していきたいと思えます。

昨年度はコロナのために中止になった大会もありましたが、7回の開設で延べ17名のお子様をお預かりしました。お子様同志も顔見知りになり、友達となって楽しく過ごされています。更に多くの審判員の方々にご利用頂けるよう、保育士さんや学生ボランティアの協力を広く募り、今年度も安心してお預け頂けるよう万全の態勢でお待ちしておりますのでどんどご利用下さい。

女性委員会では、女性審判員の増員を進めていきたいと考え、前掲の託児所開設などの活動を進めて参りましたが、まだまだ少ないのが現状です。現状把握のためにアンケート調査を実施したところ、次の二つの問題点を指摘する意見が多く見られました。

- 1.夏の期間のポロシャツの色について(雨や汗で濡れた場合に不快・不安な色を指定されると業務に集中しづらい)
- 2.審判員として参加するのはやぶさかではないが、終日拘束されるのは厳しい

こうした意見を受け、興味はあるがなかなか参加できないという女性審判員の方々に、安心して参加頂けるよう、女性委員会では改善の要望を提出し、1については夏期間のポロシャツの色については今後検討して頂けることになりました。2については審判員の参加は半日、終日と選択でき、ホームページから申し込みできるようにして頂きました。詳しくは岐阜陸上競技協会ホームページをご覧ください。

女性委員会は、2022年度も多くの女性協会員が審判員として競技会に参加して頂けるよう協会員のネットワークを有効に利用してご意見、ご要望を吸い上げて、改善に向けて進んでいきたいと考えます。

【2022年度の活動方針と計画】

- 目標…1) 託児所の充実。幼児と低学年の預かりを可能にする。
 2) 女性協会員の増員を図るため、要望の再検討とネットワークの充実を図る。

託児開催予定協議会 競技会

(6競技会、11回、長良川競技場のみ)

- ・ぎふスポーツカーニバル 4月29日(金祝)
- ・中部実業団陸上 5月14・15日(土・日)
- ・岐阜県選手権 6月25日(土) 7月2・3日(土・日)
- ・中学通信 7月9・10日(土・日)
- ・全日本実業団 9月24・25日(土・日)
- ・秋季記録会 11月3日(木祝)



競技会託児所の取り組みより

(委員長 渡邊 喜久子)

医 事 委 員 会

【2021年度活動報告・2022年度活動予定】

新型コロナの終息が見えない1年でしたが、何とか、ほぼ例年通りの事業を実施することができました。競技会運営において若干の制約を受ける中で、何とか乗り切ってきたと思いません。

本委員会としては、4月からの競技会開催に際して、岐阜県スポーツドクター協議会へ「看護師派遣依頼」を行いました。

その後は、競技会への医師・看護師派遣と競技会におけるトレーナー活動を行ってきました。6・7月の第86回岐阜県陸上競技選手権大会においては、感染防止の観点から「スタジアム救護」のみの活動を行いました。ゴール横、第3コーナー付近に各2名のトレーナーを配置し、実施種目に応じて場所は臨機応変に変更しました。事前に「搬送シミュレーション」も行い、万全の体制をとりました。昨年同様「トレーナールーム」は解説

せず、看護師と連携し、医務室において熱中症のケアを行いました。気温湿度ともに高かった影響もあり10名の利用がありました。また、本委員会に協力頂ける松岡整形外科の松岡竜輝先生に大会運営を視察して頂きました。今後の活動を見据えるなかで大きな収穫でした。その後の、三重国体へのトレーナー派遣は中止となりました。2022年3月の日本陸連「トレーナーセミナー」は、オンデマンドでの開催となりました。岐阜陸協から3名派遣する予定です。

課題であった本委員会への医師の参画については、第一歩を踏み出しました。今後の活動の在り方については、関係者とも協議し、方向性を示していきたいと考えています。大会時(岐阜県陸上競技選手権大会)の医療活動をお願いする予定です。

来年度も、「コロナ対策」を継続していくことが想定されまです。医師の協力も得ながら医事委員会として、どう関わるか、関係団体等と協力し対応していく必要があると考えています。

課題等は多くありますが、岐阜陸上競技協会のため、陸上競技選手のために活動していきたいと考えておりますので、さらなるご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

(委員長 河島 正弘)

広 報 委 員 会

【2021年度活動報告と2022年度広報委員会事業計画】

2021年度は連日のコロナ禍対応の中での委員会の運営となりました。広報委員会を招集・開催しての委員会運営の困難、時短による影響から開催場所や時間の設定が難しい状況が続きました。委員に協力頂いてメール等を活用し、議題の検討や原稿の校正等を行ってまいりました。そのような状況の中、広報誌11号を予定通り発刊することができました。関係団体・会員の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

まだまだコロナ禍の終息が見込めない中での2022年度の取り組みとなります。下記の計画に沿って事業を進めてまいります。ご理解とご協力を宜しくお願ひいたします。

事業計画

(1) 広報誌12号発刊(2022年度号)

- ・2021年度末より継続準備し、2022年4月1日付け発刊。
- ・東京オリンピック・パラリンピック特集として、岐阜県出身の出場選手・役員・審判員等のレポートの掲載実施。
- ・陸協関係は前年度総括・2022年度の取り組みと展望。
- ・岐阜陸協ホームページ掲載
- ・県内外関係団体等への発送
- ・一般会員へ4月実施の競技会にて配布

(2) 広報13号発刊(2023年度号)

- ・2022年度年度末より準備し、2023年度4月発刊予定。
- ・全日本実業団陸上特集として、岐阜県出身の出場選手等のレポートの掲載実施。

- ・陸協関係は前年度総括・2023年度の取り組みと展望の内容。
- ・岐阜陸協ホームページ掲載
- ・県内外関係団体等への発送
- ・一般会員へ4月実施の競技会にて配布

(委員長 木下 克己)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

【全国大会において上位で活躍できる選手の育成を目指して】

1 2021年度の取り組みの成果(結果)

重点目標 「自立した人 世に貢献できる人づくり
～岐阜で育てた選手を世界へ～」

基本理念 「自立型人間づくり」

結 果 東海大会 入賞 16
茨城全中 参加人数 10、リレー 2チーム
U-16大会 参加人数 16

2 中体連の取り組みについて

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「U-16」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考え取り組んでいます。強化選手を毎年選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「心」「技」「体」そして、「生活」「仲間」を大切に、チーム岐阜(選手・指導者)としての意識をもって日々活動しています。

(1) 強化選手の育成・強化

最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の規準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることが出来ます。そして、「強化練習会」での練習を通じて、県強化の指導者による各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。「目的・目標設定用紙」「ルーティーンチェック表」「日誌」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる(チーム練習が効果的な方法)原則、個人のやる気を育てるなど、指導に当たることを重点として取り組んでいます。また、個人ファイルを作成し、ブロック長が記入し、「心」「技」「体」の部分が足りないかが分かるようにして、指導方針を明確にしています。

11月から、ブロック長中心にブロック練習会を開いたり、月に1回「強化練習会」を行ったりしました。強化練習会の目的として「心」「技」「体」「生活」「仲間」の5つを大切にしています。心の面では、来季に向けての目標設定づくり。技は、専門基礎練習の理解と徹底、記録につながる技術指導。体は、コントロールテストでの弱点の確認、必要な筋力とトレーニング方法。生活は、リズム性の原則の理解とよりよい生活習慣づくり。仲間は、お互いにプラスの競り合い、刺激し合い。を目的・指導ポイントにおいて大切におこなっています。

(2) 指導者の育成。

課題でもある陸上競技を専門とする顧問がいない中学校の部活動も数多くあります。そういった顧問の先生にも普段の部活動に生かしてもらえるように、強化練習会に積極的に参加してもらっています。

(3) 今後の指導重点

今年度は、人材育成を図りながら、全国大会において上位で活躍できる選手の育成をしていきたいと思えます。本年度、福島県で行われる全中陸上競技大会では、短距離を中心に全国優勝・入賞を目指していきたいと思えます。

(委員長 村井 伴成)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

2021年度全国高校総体は福井県福井市で開催されました。2020年度は、新型コロナ感染症拡大の影響で中止となり2年ぶりの開催となりました。岐阜県勢は、男子200m2位の矢島 諒選手(市岐阜商3年)、女子400m3位の森 樺音選手(済美3年)をはじめ6つの入賞を果たしました。これは、2009年度の入賞数「7」以来、この12年間では最多の入賞数となります。

また、東海総体と県総体も予定通り開催され、制限の多い中ではありましたが、練習を重ねてきた選手のことを考えると開催されること自体が本当にありがたいことなのだと感じました。

県総体の開催にあたっては、前年度同様に感染症拡大防止のため、無観客で行い、召集時間や控え場所も3密を避けるよう工夫をして行いました。例年とは違う運営であり、制限も多い大会となりましたが、大きな混乱もなく無事に終了できました。これは、コロナ渦の開催にもかかわらずご協力いただきました岐阜陸上競技協会の皆様のおかげであり、改めて感謝申し上げます。なお、総合優勝は、男子が市立岐阜商業高校、女子が済美高校でした。

9月開催予定だった県新人大会は、まん延防止等重点措置や緊急事態措置により、休校や部活動禁止となったため、2度の日程変更を余儀なくされ、当初の予定より3週間遅れでの開催となりました。無観客での開催とし、県総体同様の運営方法となりました。競技日程も、休業期間の長かった選手の負担を考え、トラック競技でのラウンド数を減らすなどの対応を取りました。競技日程の変更による混乱もありましたが、概ね無事に終了することができました。なお、総合優勝は、男子は県立岐阜商業高校、女子は済美高校でした。

U18・U16陸上競技選手権大会は、愛媛県松山市で開催されました。岐阜県勢は、U18女子やり投において、櫻井希美選手(済美1年)が1年生ながら優勝、U16男子円盤投でも松田流輝(市岐阜商1年)選手が優勝する等、5つの入賞を果たしました。

また、県高校駅伝競走大会も県庁の工事や感染症の影響で日程とコースを変更し、昨年に引き続き長良川競技場周辺

の特設コースを使用して行いました。昨年度は試行錯誤での大会運営でしたが、反省を踏まえて今年度はスムーズに大会運営をすることができました。男子では中京が2年ぶり40回目の優勝、女子では美濃加茂が2年連続2回目の優勝を果たし全国高校駅伝に出場しました。なお、東海高校駅伝は三重県で開催され、男子では美濃加茂高校の2位をはじめ3チームが入賞しました。

最後になりましたが、大会開催に際しまして、一般財団法人岐阜陸上競技協会の皆様には困難な状況の中で全面的なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。また、岐阜県教育委員会・岐阜県地域スポーツ課、毎日新聞社等、多くの関係者の方々にも多大なる協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

また、補助員を快く引き受けてくれた高校生諸君、また、顧問の先生方の役員派遣にご配慮いただきました各校の校長先生に心より感謝いたします。今後とも陸上競技専門部の活動にご理解をいただきますとともに、ご支援を賜りますようお願いいたします。



高校女子駅伝レースより



高校女子駅伝表彰式より

(委員長 沖村 敏寛)

地区陸上競技協会報告

岐阜地区陸上競技協会

新型コロナウイルス感染拡大の中、東京オリンピックが実施され、ねんりんピック岐阜2021は中止になりました。そのような中、全国大会で入賞をする選手が増えています。全国高等学校体育大会では、市立岐阜商業高等学校の矢島諒選手が男子200mで第2位、同校 井上源禎選手が男子円盤投で第4位、済美高等学校の森樺音選手が女子400mで第3位に、同校が女子4×400mRで県新記録・県高校新記録で第5位にそれぞれ入賞しました。また、U18で市立岐阜商業高等学校の山田航大選手が男子やり投で第3位、済美高等学校の櫻井希美選手が女子やり投で県高校新記録で優勝、U16で市立岐阜商業高等学校の松田琉輝選手が優勝、全国工業高等専門学校体育大会で岐阜工業高等専門学校の藤井結菜選手が女子100m・200mに優勝しました。

日本陸上競技連盟表彰に市立岐阜商業高等学校の矢島諒選手、岐阜陸上競技協会の栄章表彰では、功労者表彰に馬場信孝さん、勲功章に市立岐阜商業高等学校の矢島諒選手、済美高等学校の森樺音選手・櫻井希美選手、記念章に市立岐阜商業高等学校の矢島諒選手、松田琉輝選手、山田航大選手、済美高等学校の森樺音選手・櫻井希美、岐阜聖徳学園高等学校の伊藤真治選手が受章されました。

各務原市で公認競技会、第1回スプリントトライアルが開催され地域が活性化してきました。

●2022年度 事業計画

日 時	事 業 名	場 所
4月17日(日)	春季スプリントトライアル	各務原市青少年運動公園
5月3・4日(火・水)	岐阜県高等学校総合体育大会岐阜地区予選会 兼 岐阜地区高等学校総合体育大会	長良川競技場
6月11日(土)	岐阜地区中学校総合体育大会	長良川競技場
9月11日(日)	岐阜地区陸上競技選手権大会	長良川競技場
10月15日(土)	岐阜地区中学校駅伝競走大会	山県市四国山香りの森公園
11月20日(日)	ぎふしんウイメンズラン	メディアコスモス
12月11日(日)	岐阜地区高等学校駅伝競走大会	長良川左岸道路
3月 5日(日)	理事会	未定

(理事長 正村 菊雄)

東濃地区陸上競技協会

【コロナ禍の2021年度を振り返って】

2021年度も「まん延防止等重点措置」:5月9日(日)~6月21日(月)、8月20日(金)~10月1日(金)と「緊急事態宣言」:8月27日(金)~10月1日(金)が断続的に発令されました。新型コロナウイルス感染症は二年目を迎えました。収束の期待も見事に裏切られデルタ株による第5波そしてオミクロン株による第6波の感染急拡大と嫌というほど感染症の脅威を思い知らされる一年となりました。本協会主催事業である各種事業も参加者の健康や安全を考慮し必然的に中止や延期の判断

を余儀なくされ、昨年度を下回る大会開催数となりました。残念ながら多くの小中高生をはじめ陸上競技愛好家、そして運営に携わる我々協会員にとって長く辛い一年となりました。

【開催した競技会等】

○講習会:岐阜陸上競技協会審判講習会(東濃会場)、
記念ポロシャツ・帽子的新調

期 日:4月18日(日)9:30~10:45

場 所:多治見市運動公園星ヶ台競技場 会議室

参加者:39名

講 師:(財)岐阜陸上競技協会 審判委員長 脇田篤実氏

※新型コロナウイルス感染症の影響で開催大会数は減るものの諸大会の円滑な競技運営を図るため、毎年恒例の岐阜陸上競技協会審判講習会(東濃会場)を開催し、知識・技能の向上及び公認審判員としての資質向上を図りました。同時に東濃スポーツ協会創立50周年記念の一環で記念ポロシャツ・帽子を新調し、協会員の士気高揚と団結を図りました。

○大会名:東濃地区記録会・長距離記録会

期 日:令和3年6月5日(土)

場 所:中津川公園陸上競技場

参加者:450名 競技役員110名

※本大会は、多くの参加者にとって日頃の練習成果を発揮するとともに新たな目標設定のための貴重な機会となりました。新型コロナウイルス感染症対策として入場数制限や感染者が出た場合の対応のため、無観客(保護者含む)試合とし、ADカードによる入場制限を導入しました。

○大会名:第6回秋季ジュニア陸上競技会

期 日:令和3年10月31日(日)

場 所:多治見市星ヶ台競技場

参加者:465名 競技役員120名

※新型コロナウイルス感染症の感染者数が激減し、明るい兆しが見られ始めた最中での貴重な大会となりました。天候に恵まれ昨年同様、8つの大会新記録と1つの大会タイ記録ができました。一方、運営面では、要覧記載方法から変更して今回より岐阜陸協の申し込み方法を採用し運営の効率化を図りました。

【次年度に向けた課題等】

新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されたのが2020年2月。目に見えない脅威との闘いは間もなく二年になろうとしています。残念ながら未だに先が見えない状況ではありますが、引き続き「ウイズコロナ、そしてアフターコロナ体制の構築」を図りつつ、次年度の各種事業がより活発で円滑に開催できるようこの二年間で獲得した資源を有効に活用しなければなりません。一方、コロナ感染症への直接的な対応というより、人口減少や少子高齢化による競技人口や協会会員の減少対策など、これまでもあった課題に対して解決する方策を積極的に検討してゆきたいと思っております。



審判講習会



東濃シャツ

(理事長 西垣 幸司)

西濃地区陸上競技協会

2021年度西濃地区陸上競技協会の事業報告をさせていただきます。

本年度も新型コロナウイルス感染症「第4波」「第5波」の影響を受け、予定された行事・大会等を中止、延期せざるを得ませんでした。

いびがわマラソンはオンライン形式に変更、西濃選手権を始めとするトラックレースはすべて無観客とし陸連ガイドラインに沿って開催しました。また、大垣陸協関係では大垣マラソンが中止、大垣市選手権は日程を変更して開催しました。

選手、父兄、競技役員の皆様には多大なるご協力を賜り本当に有難うございました。

1 2021年度事業報告

- ①5/8 強化普及記録会(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…812人
- ②6/5・6 西濃陸上競技選手権(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…1,168人
- ③6/12 西濃地区中学(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…317人
- ④7/8 総会(書面にて議決)
- ⑤10/24 強化普及記録会(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…733人
- ⑥11/14 いびがわマラソン(揖斐川町)→オンライン形式
- ⑦11/20 強化普及記録会(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…240人

【大垣陸協関係】

- 11/3 大垣市選手権(浅中) ※無観客で開催
●参加選手…461人
- 12/12 大垣マラソン(大垣駅前)→中止

2 2022年度事業計画(案)

- ①5/7 強化普及記録会(浅中)
- ②6/4-5 西濃陸上競技選手権(浅中)
- ③6/5 総会(未定)
- ④6/11 西濃地区中学(浅中)
- ⑤10/10 強化普及記録会(浅中)
- ⑥11/13 いびがわマラソン(揖斐川町)

【大垣陸協関係】

- 9/10 大垣市選手権(浅中)
- 12/11 大垣マラソン(大垣駅前)

3 2022年度 西濃地区陸上競技協会役員

- 会 長 田口 利正
 - 副会長 松原 正則・久保田智也
 - 理事長 牧野 安孝
 - 常務理事 臼井 隆・土屋 雅敏・安福 弘典
 - 理 事 勝木 秀和・高木 敏夫・高橋 良司・
高橋 雅久・小藪 博史・谷河 恵治・
清水 裕晶・中寫菊太郎・北野 孝英・
片田 泰郎・森 光弘・酒井 俊輔
 - 監 事 酒井 清司・野川 光義
 - 事務局長 馬場 保
- (地区理事 安福 弘典)

2021年度に実施した競技会

- 5月2-3日 高体連地区大会 開催
- 6月5日 美濃地区中体連大会 開催
- 6月12日 可茂地区中体連大会 開催
- 8月2日 中濃地区強化記録会 コロナ禍で中止
- 8月9日 ナイター記録会 コロナ禍で中止
- 9月25日 長距離記録会 コロナ禍で中止
- 10月23日 第9回中濃地区ジュニア記録会 参加者298人開催
- 2月6日 第36回中濃駅伝競走大会 コロナ禍で中止



ジュニア記録会風景



ジュニアの練習風景

中濃地区陸上競技協会

【2021年度活動報告】

今年度当初に計画した大会のうち、上位に繋がる高体連地区大会、中体連地区大会は実施できましたが新型コロナウイルス感染拡大により計画の半分以上が中止を余儀なくされました。

選手の育成強化をはかるために、小学生や中学生を中心に県陸協および中濃体育協会の助成金を活用して10数回の合同練習会や強化記録会を実施し陸上競技の普及と選手の育成強化を行いました。

第5波の感染拡大が下火となった、10月23日に春先から強化してきた練習成果を試すために中濃地区ジュニア記録会をコロナ対策を充分に行い、無観客で300名近くの選手が参加をして記録会を開催できました。

2月6日に百年公園周回コースで中濃駅伝競走大会を計画していましたが、第6波のコロナ感染拡大のために中止となりました。

【2022年度活動計画】

2022年度もコロナ禍での大会開催となりますが、育成強化をはかるためにジュニア選手を中心に強化記録会や合同練習会などを6回程度開催出来る様に計画しています。

2022年度中濃地区開催予定競技会

- 5月3日 美濃地区中学生記録会
- 6月5日 第51回中濃陸上競技大会
- 6月11日 美濃・可茂地区合同中学陸上競技大会
- 未定 中濃地区審判講習会
- 7月18日 中濃地区高校総体
- 8月28日 中濃地区ナイター記録会
- 9月24日 第2回中濃地区長距離記録会
- 10月8日 第10回中濃地区ジュニア記録会
- 2月5日 第35回中濃駅伝競走大会
- その他 強化普及記録会を3回程度実施します

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

【2021年度を振り返って】

今年もコロナに振り回された1年でした。主催大会としては、9月4・5日に実施予定であった、少年団記録会、飛騨選手権大会が中止となりました。主催大会ではありませんが、6月4・5日に実施予定であった高山市民スポーツカーニバル、高山市中学校・高等学校対校陸上競技大会が中止となりました。非常に残念な思いで、これらの大会の中止を決定しました。大会に向けて練習してきた選手にとっては非常に残念な結果となりました。

特に夏以降の試合は、中止や延期が相次ぐ中、11月21日に飛騨駅伝大会が予定通り実施されました。この大会はコロナ対策をしての大会実施のあり方のひとつのモデルとなるような、実践を行いました。事前の健康観察などに加えて、参加選手は全員新型コロナウイルス感染症抗原検査を行いました。飛騨市の多大な協力を得て、選手は前日か当日の競技前に飛騨市役所にて検査を行いました。その結果全員が陰性で、駅伝大会も無事開催することができました。



2021飛騨駅伝大会より

2022年度・飛騨地区競技日程

5月3・4日(火・水)

第45回飛騨地区春季陸上競技記録会・
県高校総体飛騨地区予選会(中山)

6月4日(土)

第28回高山市中学校体育連盟陸上競技大会
第28回高山市高等学校対校陸上競技大会1日目(中山)

6月5日(日)

第28回高山市高等学校対校陸上競技大会2日目
第57回高山市民スポーツカーニバル・
高山市陸上スポーツ少年団大会(中山)

6月18日(土)

第50回飛騨地区中学校体育大会 陸上競技(中山)

7月16日(土)

第72回飛騨地区高等学校総合体育大会 陸上競技(中山)

7月24日(日)

第70回飛騨地区スポーツ大会(陸上競技)
第28回飛騨地区陸上スポーツ少年団交流会(中山)

9月3日(土)

第7回飛騨地区陸上スポーツ少年団記録会(中山)

9月4日(日)

第54回飛騨地区陸上競技選手権大会(中山)

10月2日(日)

第71回男子・第39回女子飛騨地区高校駅伝競走大会
(飛騨市古川町森林公園)

10月8日(土)

第35回高山市中学駅伝競走大会(中山)

10月10日(月)

第44回飛騨地区秋季陸上競技記録会(中山)

10月15日(土)

第30回飛騨地区中学駅伝競走大会(中山)

11月20日(日)

第58回飛騨駅伝競走大会(飛騨市古川町)

2022年度の飛騨地区で開催される主な競技の予定です。
今年こそは予定通りに開催されることを願っています。

(理事長 坂谷 幸紀)

訃報のお知らせ

杉山道昭 岐阜陸上競技協会名誉副会長
ご逝去

岐阜陸上競技協会名誉副会長の杉山道昭様が8月16日に91歳にてご逝去されました。8月18日に家族葬が行われました。

10月10日には「杉山道昭様をしのぶ会」がホテルグランパール岐山にて開催され、卒業生や陸上競技関係者が多数列席されました。

今までの岐阜陸上競技協会への多大なるご功績に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

次号紹介

2023年4月発行予定です

編集委員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	澤田 和彦	小川 秀一
安福 弘典	清水 洋一	